

在イスラエル日本大使 竹内春久 様

イスラエル政府・軍関係者らが、パレスチナ西岸地区のオリーブ畑の破壊・接収行為を繰り返していることが、このたび JAI-Joint Advocacy Initiative(*)の調査により明らかになりました。最近では、2月22日に日本をはじめ、オランダ・ノルウェー・英国・米国の市民の寄付によりパレスチナ農家へ贈られた木を含む約300本のオリーブの木がイスラエル軍の独断で伐採され、世界の寄付者は失望し怒り、オリーブ栽培で生計を立てているパレスチナ農家は壊滅的な打撃を受けています。

この事件は氷山の一角にすぎず、イスラエル政府および軍が日常におこなっている、パレスチナ人の農地や家屋の破壊と接収は、パレスチナ西岸地区の実行支配を進めるイスラエル政府の策略とされています。

事実確認のために、パレスチナの被害農家を訪問して下さるようお願いします。

* JAI とは、東エルサレム YMCA とパレスチナ YWCA が協働で運営しているグループで、オリーブの木の寄贈や農業支援などにより、パレスチナ農家の経済的自立や自然環境保護を促進しています。YWCA および YMCA は 100 年以上の歴史を持つ国際 NGO で日本にも事務所があり、社会的信用のある団体です。 JAI を通して、被害農家の紹介をいたします。

(JAI olivetree@jai-pal.org Fax: + 970 2 2774540)

お名前: _____ 日付: _____